

## 火山噴火のしくみ

地球は、十数枚のプレートと呼ばれる岩盤でおおわれており、火山はプレートの境界（海溝沿い、海嶺）とプレート内にホットスポットとして分布しています。下の図のように、陸のプレートの下に沈み込んだ海のプレートからの水の働きによって、上部マントルの一部が融けて上昇し、マグマが形成されます。

マグマの中には、水や炭酸ガスなどが溶け込んでいます。マグマが上昇すると、圧力が下がりガスが泡になります。泡を含んだマグマが地表の浅い部分まで上昇し、吹き出します。これが噴火の仕組みです。噴火の様式は多岐にわたりますが、一般的に水蒸気噴火、マグマ水蒸気噴火、マグマ噴火の3つに大きく分類することができます。

噴火に伴って発生する火山現象には溶岩流、噴石や火山灰、火山ガスなどがあり、特に大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、防災対策重要度が高い火山現象とされています。また、火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると、土石流や泥流が発生しやすくなります。

このような災害から身を守るために、気象庁では噴火の発生を知らせる「噴火速報」や、噴火に伴って生命に危険を及ぼす火山現象が起きた・または予測されるとき、危険な地域を知らせるときに発表される「噴火警報」等の火山情報を発表しています。この情報は、気象庁ホームページやテレビ、ラジオ、携帯電話、防災行政無線などで確認できます。火山災害は発生してから被害を与えるまでの時間が非常に短いため、ハザードマップを見て危険な場所や避難場所を確認しておく、防災情報をチェックするなどの事前の対策が必要です。

問い合わせ先 網走地方気象台  
(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ  
火山-監視と防災情報-についてはこちら

